

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月11日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201321		
法人名	有限会社 ソラ		
事業所名	グループホーム 笑顔の村二番地		
所在地	札幌市北区新琴似11条16丁目10番9号 (電話) 011-768-3510		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年11月4日	評価確定日	平成21年12月7日

【情報提供票より】 (平成21年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	8 人	常勤 3人, 非常勤 5人, 常勤換算 6.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り
	2階建ての 1～2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	光熱水費 20,000円 暖房費(11～3月)6,000円
敷 金	有 (円) ・ <input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) <input checked="" type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (11月 4日現在)

利用者人数	6 名	男性 3 名	女性 3 名
要介護 1	1 名	要介護 2	2 名
要介護 3	2 名	要介護 4	1 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 71.3 歳	最低 61 歳	最高 79 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北成病院、中江病院、みき内科クリニック、カルチエド歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、住宅街の2階建て一軒家を改造した建物です。法人が運営する4箇所のグループホームは、住宅改造型がほとんどで1ユニットの小規模体制にし、家庭的な雰囲気や地域との交流を大切にした生活環境を目指し運営されています。利用者は、自分のペースを大切にしながら、全員が様々な町内会行事に参加したり、避難訓練にも参加するなど、明るく快活な暮らしをしています。24時間対応の提携病院とも連携しており、安心して自宅で暮らしているようなホームです。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題とされた、①職員を育てる取り組み②日常的な外出支援について、職員全体で検討し、改善計画を立て、改善に向け1年間取り組んでいます。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、月1回の職員全員によるミーティングで話し合い、その内容を職員それぞれが担当項目毎にまとめ、管理者が最終的に纏め上げて作成しています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヵ月毎に定期開催し、行事報告や感染予防などの状況報告し、意見をいただいています。また、構成員に、利用者の誕生会に参加していただき食事を共にしたり、他グループホームの管理者が、お互いの運営推進会議に参加をして、意見交換するなどの取り組みもしています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	外部、内部に苦情相談窓口を設け、重要事項説明書にも明記し、意見箱設置や、家族面会時にも意見要望、苦情等を伺っていますが、家族からはほとんどありません。ホーム開設7年目に入り、現状に満足せずに、利用者の家族の立場に立って、意見や苦情、不満が気軽に安心して表せる体制になっているのかを確認し、その体制作りを期待します。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、利用者全員が夏祭り・敬老会・清掃活動・防災訓練などの町内会行事に参加して、地域住民との交流を重ねています。ホーム行事にも地域住民の方々の参加を呼びかけ、踊りなどの地域ボランティアも受け入れています。近隣の方々とも畑作りなどで交流をしています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人の理念は、当初の理念に地域密着型としての役割を加え、4ホーム共通の理念として掲げています。ホーム独自の理念「いつも笑顔でさり気ない支え合い」も開設時に職員間で話し合い作りあげています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念・ホーム独自の理念は、リビングの見やすい箇所に掲げ、常に意識できるようにしています。職員採用時にも説明をして理解してもらっています。介護計画作成時には、理念に沿うような生活支援を心がけています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、利用者全員が夏祭り・敬老会・清掃活動・防災訓練等の町内会行事に参加して地域住民との交流を重ねています。ホーム行事にも地域住民の方々の参加を呼びかけ、地域ボランティアも受け入れています。近隣の方々とも畑作りなどで交流をしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、月1回の職員全員によるミーティングで話し合い、その内容を職員それぞれが担当項目毎にまとめ、管理者が最終的に纏め上げて作成しています。前回評価結果は、改善計画を立て、改善に向け1年間取り組まれています。		

札幌市北区 グループホーム 笑顔の村二番地

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヵ月毎に定期開催し、行事報告や感染予防等の状況を報告し、意見をいただいています。また、構成員に利用者誕生会に参加していただき、食事を共にしたり、他ホームの管理者が互いの会議に参加して、意見交換をするなどの取り組みをしています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には、毎月、ホームの状況報告や、申請書の提出等を行ない、助言をいただくなどのサービス向上に取り組む関係を築いています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当職員による個人通信を毎月発行して、利用者の暮らしぶりを記載し、写真を同封し郵送しています。ホーム便りや金銭出納報告も毎月郵送し報告しています。ホームページを開設し、関係者がいつでも閲覧できるように取り組んでいます。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部及び内部に苦情相談窓口を設け、重要事項説明書にも明記し、意見箱設置や、家族面会時にも意見要望、苦情などを伺っていますが、家族から苦情や不満、意見等はほとんどありません。	○	ホーム開設して7年目に入り、現状に満足せず、利用者の家族の立場に立って、意見や苦情、不満が気軽に安心して表せる体制になっているのかを確認し、その体制作りを期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は若干ありますが、利用者への影響を最小限にするため、利用者への説明や連絡を丁寧に行っています。また、新しい職員には、慣れるまで管理者と共に介護にあたるように配慮しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、管理者会議の研修会や各種職員研修会に参加しています。その内容を、内部研修として、職員全員のミーティングで報告をしています。また、救命救急の講習も受講し、緊急時や応急処置に対応できるよう技術の向上に努めています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、区のグループホーム連絡会の役員を務めており、管理者同士、交流を重ね情報交換をしています。職員は、近隣のグループホームや系列ホームとの合同行事や見学、相互訪問などで交流を深め、互いのサービス向上に取り組んでいます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に利用者や家族にホーム見学にきていただき、お茶を共にしながらホームの雰囲気を感じていただき、どのような生活をしていきたいか、利用者や家族の意向を十分に伺っています。また、可能ならば、自宅訪問をして、暮らしぶりを詳細に伺っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの得意分野を大切に支援しており、料理・和裁洋裁・歌・大工仕事など、利用者に教えていただき、協力しながら支え合う関係を築いています。また、職員は、理念に掲げている「さりげない支え合い」を目標に支援をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族や利用者からライフヒストリーを書いていただき、入居後の日常の関わりの中で参考にしながら、利用者の思いや意向を引き出すように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者の担当職員がセンター方式の用紙に蓄積した24時間の生活リズムパターンや利用者・家族の意向、主治医や看護師からの助言も考慮しながら、暫定計画を作成し、職員会議で介護支援専門員も含め検討し介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の介護記録に介護計画具体策の実施状況や利用者の言葉等を記載するように設定されており、職員全員が共有し、計画のずれがないか確認して、定期的や必要時に計画の見直しをしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の送迎時、家族が同行できない場合は、介護タクシーを利用し通院支援をしています。また、利用者の希望により、外出支援も柔軟に対応しています。ホーム内での訪問理美容も行なっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による訪問診療が隔週毎にあり、利用者の健康管理を支援しています。24時間の連絡体制も整備されており、相談や著変時の対応をしています。以前からのかかりつけ医を継続受診している利用者もいます。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合は、利用者や家族の意向を最大限尊重し、ホームとして出来ることを入居時に家族、利用者に説明をして、重度化に関する対応指針に同意をいただいています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に、利用者のプライバシーの確保や誇りを尊重した話しかけや対応を心がけています。また、ホームページでは、利用者の暮らしぶりについてパスワードで管理し、個人情報の管理も職員全員に周知徹底しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりのペースを大切に見守りながら、無理のない支援を心がけています。散歩や買物等の希望があれば、対応できるように支援しています。今回、昼食後の散歩の希望があり支援している様子が伺えました。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は、食材会社に昼食夕食の2食分を委託しています。朝食は、利用者の好みを聞きながら、職員が作っています。食事の準備は、テーブル拭きや配下膳、食器洗い等の作業を一緒に行ない、食事中は、テーブルを囲みながら、職員と共に食事をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者の習慣や気分を大切に週2回以上の入浴支援をしています。一番風呂を希望する利用者についても支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握して、歌・習字・料理の味付け・日曜大工・野菜作りなどの得意分野を支援することで、利用者の生活に張り合いや楽しみを感じていただけるよう取り組んでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩や大型スーパー「イオン」やコンビニへの買物、町内会行事などに出掛け日常的な外出支援をしています。また、花見、苺狩り、動物園、カラオケ大会などのホームの年間行事に出掛けています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前が急階段で危険なため、事故防止目的で玄関は施錠しています。センサー設置と職員の何気ない見守りにより、利用者の外出の気配を感じたら、さりげなく同行して利用者の思いを尊重するよう支援をしています。		

札幌市北区 グループホーム 笑顔の村二番地

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、消防署の指導の下、年2回実施しています。町内会役員や近所の方々の協力をいただきながら、利用者全員参加で避難しています。今後、夜間想定訓練も予定され、話し合いやシュミレーションは実施されています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしています	利用者の食事摂取量や飲水量は介護日誌に記載しています。栄養バランスは、食材会社の栄養士によるカロリー計算がされています。嚥下や咀嚼の弱い利用者には、とろみ食や嚥下体操で十分な栄養が摂取できるようにしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅改造型のホームで、スペース的余裕はありませんが、家庭的雰囲気大切に、自宅で暮らしているような居心地の良い空間を造っています。浴室やトイレは、比較的ゆったりとしたスペースがあり、利用者にも負担なく職員が介助できるようになっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の形態は住宅改造型のため若干異なりますが、窓が2箇所設置してあり明るく、広さは十分にあります。利用者は使い慣れた家具を持ち込み、ベットや畳敷き布団などこれまで通り過ごすことで、一人ひとりが居心地の良い居室となるように工夫しています。		

※ は、重点項目。